

2024年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書			2025/9/30	
団体名	NPO法人生態教育センター	活動タイトル	黒桂河内川洞窟コウモリ調査と保全活動の持続化にむけた普及啓発活動の基盤づくり	
活動対象地域における生物多様性の保全に関する現状と課題			■ 活動風景	
山梨県早川町は南アルプスユネスコエコパーク登録地であり、人と自然が共生するモデル地区である。 その町にある南アルプス邑野鳥公園北部を流れる黒桂河内川両岸の人工洞穴には、2014年～2016年に専門家が実施した調査で、環境省、山梨県ともに絶滅危惧Ⅱ類（VU）ノレンコウモリや山梨県準絶滅危惧種（NT）テングコウモリの生息が確認されている。また、他2種のコウモリの繁殖も確認された。 その後2017年～2020年に有志のボランティアと地域の専門家が実施した調査では、山梨県準絶滅危惧種（NT）のヒコウサギコウモリや1000頭以上のコロニーを確認した。これらの調査によって、活動対象場所は、8種ものコウモリが生息や繁殖する生物多様性上非常に重要な場所であること、かつエコパーク登録地として誇るべき場所であることが判明している。 しかし、2019年10月に発生した台風で一時的に本洞穴が水没した。さらに同台風によって黒桂河内川上流部の山体が一部崩落し、土砂が川の流れをせき止めた。閉塞箇所が決壊すると流域に人的被害が想定されるとして、砂防堰堤の建設が持ち上がったが、完成した堰堤による河床上昇で洞穴の水没が想定される。 こうした現状から希少なコウモリの保全および多種のコウモリが生息する洞穴の保全が急務であると考えられる。ただ、コウモリ類は生態が不明な種が多く、保全のためには詳細な利用状況の把握が必要である。 しかし、ボランティアの活動では調査や保全を継続して行うための人材や資源が十分ではなく、また地域に活動が認知されていない状況で持続可能な活動を行う基盤が不十分という課題がある。 このことから、本調査の実施とその後の保全活動を弊団体の自主事業として持続可能なとりくみへと発展できるよう、調査と地域で生物多様性保全の情報発信・コーディネートを行える人材の育成や協働などの基盤強化を図りたいと考えた。			「参加型調査の様子」 新スタッフBが参加者に指導しながら調査を行っている	
■ 活動報告		■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)		
●人工洞穴内におけるコウモリ相および生態調査 黒桂河内両岸の人工洞穴を利用するコウモリの動態を把握し、希少なコウモリを保全するために、コウモリ類の生態調査および洞穴環境調査を行った。 2024年9月～2025年8月の期間中、下記の調査を行った。 ・目視調査、捕獲調査、洞穴内の温湿度測定、他生物の利用状況調査 ●コウモリ保全活動の持続化にむけた普及啓発活動の基盤づくり 調査を含めた保全活動を継続していくための基盤を整えるためにスタッフの育成や普及啓発活動を行った。 ・スタッフBの増員と育成、市民参加型調査の実施、調査報告会の実施、SNSでの情報発信 ●収益事業展開に向けたプログラムの試行 事業を継続するための資金集めの案として洞穴最寄りの池に飛来するコウモリの観察プログラムを企画立案。一般向けにプログラムを試行し企画のブラッシュアップや収益化の検討を行う。		●人工洞穴内におけるコウモリのコウモリ相および生態調査 環境省や山梨県が指定する絶滅危惧種が昨年度と変わらず繁殖や越冬に洞穴を利用していることが確認された。また、標識リングを装着したコウモリが複数回確認できた。この結果から、コウモリの継続的利用および生息環境が安定していることが示唆される。また洞穴内部の温湿度調査の結果とコウモリの洞穴内部の利用場所を照合したところ、関係性があることが示唆された。この結果からコウモリ達がこういった環境を選択して生息するのかと言った利用条件の一部が解明されたと言える。 ※本事業のきっかけでもある砂防堰堤建設計画が変更となり、希少なコウモリやコウモリの生息環境が保全に向けて大きく前進したと言える。 ●コウモリ保全活動の持続化にむけた普及啓発活動の基盤づくり ①市民参加型調査3回、調査報告会1回、地域広報誌への掲載1回、SNS発信12回 ②スタッフA1名、スタッフB2名育成、協力団体数3、普及活動への参加者数延べ35名 ※本活動は南アルプスユネスコエコパーク登録地で行っている。そこで本活動をエコパーク事務局へ報告したところ、担当官から「南アルプスBRで数少ない移行地域内での具体的な生物に関する先進的な取り組みである」と評価をいただいた。 ●収益事業展開に向けたプログラムの試行 目標「プログラム企画、試行数3回」：3回実施		
■ 事業を通じて得られたノウハウ		■ 望ましい社会状況を達成するための課題		
●コウモリの調査手法 コウモリ調査の専門家とともに洞穴内の調査を行ったことにより、以下の調査に必要なスキルを習得した。 ・踏査（洞穴内に入り目視でのコウモリ搜索）：コウモリの探し方、種の同定方法など ・標識調査（コウモリを捕獲し個体識別用のリングを装着し、追跡調査）：捕獲方法、体長などの計測方法、リングの装着方法など ・音波調査：超音波を元にしたコウモリの搜索方法 ・データ解析方法：収取したデータの解析の視点など ●市民参加型調査の運営方法 ・専門家から調査方法を学び、調査の経験を積んだことで調査について初心者だったスタッフBが、専門的な調査方法を一般化して参加者へ伝えることができるようになった。 ・市民参加型調査の運営経験があるスタッフAの指導の下、スタッフBがOJTで参加型調査を運営した結果、グループコントロールも行えるようになった。 ●池でのコウモリ観察会 ・コウモリ保全の普及啓発、事業の収益化を目指してプログラムの試行をしたことにより、プログラムの企画立案ができるようになった。 ・夜行性のコウモリにあわせて夜間にプログラムを実施したことにより、暗闇での安全管理を行うことができるようになった。		●人工洞穴内におけるコウモリのコウモリ相および生態調査 ・継続したモニタリングの重要性 砂防堰堤の工事計画は変更になるが、変更後の計画がコウモリにとって影響のないものかを測定するためにも継続した調査が必須。 ●コウモリ保全活動の持続化にむけた普及啓発活動の基盤づくり ・地域の関心が低い 貴重なコウモリが生息していることや生息地の現状について、地域では話題になっておらず関心もない状況である。調査報告会の参加者も地域外の方が多い現状。そのため地域への発信強化が必要。 ●収益事業展開に向けたプログラムの試行 ・財政基盤がぜい弱 本活動はボランティアで実施している活動で、活動を継続していくための基盤が不十分である。有料のプログラムを試行したが、頻繁に開催できるものでもなく、事業の収益化は困難と言わざるを得ない。スポンサーや地域からの援助を得られるような働きかけも必要。		
■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）				
この1年間の活動を通じて		・砂防堰堤の工事計画が変更 ・南アルプスユネスコエコパーク担当官の高評価 ・現地スタッフの育成によりスタッフB1名増員 ・地域団体や関心のある市民への活動の周知	を達成しました。	
■ 受益者の具体的な変化（自由記入）				
・すべてのコウモリの継続利用とコキクガシラコウモリの繁殖継続を確認し、安定した生息環境が維持されていると考えられる。 ・調査報告会に地域に関わる他分野専門家の参加があった。その専門家から「素晴らしい成果なので是非この活動を論文化したりプレスリリースしてみては」とのコメントがあった。				